

子供にやさしい歯科治療

熊本県 入江歯科医院

入江英仁



■略歴

- 1947年11月24日生（東京都出身）
1977年 城西歯科大学歯学部卒業
1977年4月 城西歯科大学小児歯科学講座助手
1982年4月 同 講師
1984年～1987年
日本小児歯科学会評議員
1986年3月 城西歯科大学退職
1986年4月 入江歯科医院開業
1988年 日本小児歯科学会認定医

厚生省が7月6日に発表した1995年の人口動態統計の概況によると、また出生率が低下し、史上最低の1.43にまで落ち込んだ。これまでも言い続けられてきたように、少子化社会＝高齢化社会へ向かう傾向が更に一段と進んだといえる。このような社会状況においては、子供たちは否が応でも次世代を担っていく者として（過剰の？）期待をされ、またそのように育てられていくのであろう。

子供を育てるということは、我々がこれから社会をどう考え、どう作っていくかということの現われであり、我々の未来に対するメッセージでもある。親が子を育てるのと同時に社会が子供たちを育てていかなければならぬのだが、最近の子育て、教育はあまりにも個人的要因が強くなり、社会と子供の関わりが希薄になってしまっている。子供たちには社会の一員であり、常に社会との関わりの中で生活をしているのだという実感を持って成長していってほしいと思う。

一方医療の現場においては、”CureからCareへ”から更にHealth promotionへと流れが変わりつつある中で、従来の健康指導も個人個人が自分の健康を自ら獲得していくような生活観を求めての健康学習へとシフトが移ってきてている。ここで我々歯科医療従事者に求められるのは、単に治療上のテクニックだけでなく、口の健康をきっかけとして全身、あるいは生活をも見据えた「生活処方箋」をいかにきるかということではないだろうか。我々の扱う疾患の多くが日常生活の歪みに起因する「生活病」であることを考えれば、その原因を正す努力を積極的に行っていかなければならない。

以上のようなことを考えつつ、また実際の診療室で母親（保護者の代名詞として）がどのように感じ、望んでいるか調査した結果なども紹介しながら子供たちへの対応を探っていきたいと思う。

未来を担う子供たちが育っていく環境の一部として、我々歯科医療従事者が何を与えてあげられるのか、どうすれば彼らの元気を応援してあげられるのかをみなさんと考えてみようと思っている。